CONTENTS

■ 2　足跡を振り返る ……イ・ヨンフン牧師

■ 4　今日のマナ …… チョウ・ヨンギ牧師

・聖なる自画像

■ 7　メッセージ …… 志垣重政牧師

・冒涜してはならない存在

■ 10　特集｜「独り牧師夫人宣教会」イ・エステル牧師夫人……

・12 月の贈り物、チョー・ヨンギ牧師…… パク・ジョンヒ

■ 21　ユ・ジョンオク牧師婦人の信仰物語……

・忘れられない贈り物

■ 28　霊的リーダーシップ ……イ・ヨンフン牧師

・祈りに励むリーダー

■ 32　読み直す山里からの手紙 ……デ・チョンドク神父

・私が引き受けた神様の働きに他の候補者はいますか？

■ 38　レビ記ライフ……カン・デウィ 牧師

・何を食べたらよいか

■ 44　狭き門狭き道…… カン・サン牧師

・「あなたは何をあきらめたのか」

この「しなんげ」は、おもに韓国版信仰界 2021 年 12 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

足跡を振り返る

イ・ヨンフン牧師

野望と情欲にまみれて放蕩な人生を送っていたアウグスティヌス（生没 354 ー 430）は、カルタゴを離れてローマに向かいました。帝国の首都ローマに着いたアウグスティヌスは必ず成功すると決心しました。しかし、ローマに到着したあと、彼の人生は予想外の展開になったのです。

アウグスティヌスは一年ほどローマで過ごしたあとはミラノに移住し、そこで信望が厚い司教アンブロジウスに出会い、福音を受け入れました。自分の夢を追い求めて自ら決めて旅立ったのですが、そこで神様に出会い人生が変わったのです。自分の野望のために向かったローマで神様に出会ったアウグスティヌスは、当時のことをこのように告白しました。

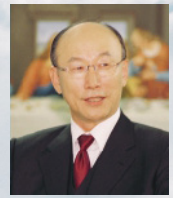
「神様は、私がキリスト教徒になるように、カルタゴからローマへと導かれた」

もしかしたら、あなたは自分の思い通りに、自分の夢を追い求めて生きているかもしれません。しかし、私たちの人生を支えておられる神様は、自らの意思で行った場所で会ってくださいます。2021 年の歩みを振り返ってみてください。自分の思い通りに過ごした 1 年だったとしても、そこには神様の恵みの跡が残っているはずです。

「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である」（箴言 16:9）

自分の思い通りに人生を歩んでいるようでも、そうした私たちに同行される神様に感謝し、一年を締めくくりたいと思います。†

聖なる自画像



チョー・ヨンギ 牧師
（1936～2021）

「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである」（エペソ 2:10）

この世の人々は誰でも、「自画像」を心のキャンバスに思考の絵筆で描いています。そして、この自画像にふさわしいように振る舞います。ひねくれた自画像を持っている人は卑屈な言葉を発し、敗北者の自画像を持っている人は常に否定的な言葉を使います。人は自画像次第で、地位が変わったり、豊かになったり、貧しくなったりします。

ある人は病んでいる自画像を持ったため、昼夜、病気の痛みから抜け出すことができません。一タラントの自画像を持っている人は一タラントしか得られませんが、五タラントの自画像を持つ人は五タラントを得ることができます。人生にとって最も重要なのは、環境やチャンスではなく、自分が描く自分の姿、すなわち、自画像です。

ですから、神様は私たちを祝福される前に、私たちの自画像を変化されます。アブラハムを呼び出された神様は、カルデア・ウルを離れてカナンに入るように運命を変えられた時も、まずは彼に新しい自画像を与えられました。

「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」（創世記 12:2-3）

アブラハムの自画像は変化し、アブラハムは絶えず心の中で、時には声に出して叫びました。

「私は偶像を作るテラの息子であるが、これからは大きな民族の父である。私は祝福そのものなのだ。私を通して、世界は祝福される」

今、想像してみてください。どれほど自信にあふれているでしょうか？　神様はアブラハムの新しい自画像通りに祝福を与えられ、彼はイスラエルの先祖になっただけでなく、祝福そのものとなったのです。

皆さんも祝福と豊かさ、健康と勝利と成功で彩られた自画像を描いてください。イエス・キリストの十字架から流された血潮で、あなたの運命はすでに変わりました。イエス様の十字架がまさに皆さんの自画像です。

皆さんは赦され、呪いと罪の刑罰から解放されました。心の中に描いた成功者という自画像が皆さんを成功に導くことでしょう。†

志垣重政 牧師　純福音東京教会

冒涜してはならない存在

―― マルコによる福音書 3 章 20 ～ 30 節 ――

「群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、『彼はベルゼブルにとりつかれている』と言い、『悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ』とも言った。そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、『どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることはできない。縛ってからはじめて、その家を略奪することができる。よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる』。そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。」

噂が噂を呼び、イエス様を一目でも見ようと多くの群衆が集まりました。イエス様は嫌な顔一つせずに天国の福音を語り、病人を癒し、悪霊を追い出しました。一人を癒しただけでもセンセーショナルな事件なのに、病人をことごとく癒されたのですから、その人気が絶頂に達したことは容易に想像できます。しかし、イエス様はそれを望まず、人々に口外することのないようにと戒めました。イエス様にとって大切なのは奇跡やご自身の人気よりも、神の福音・天国の御言葉を伝えることだったからです。

ところが、律法学者はこの人気に嫉妬し、同時に自分たちの既得権を守るために、イエス様の悪い噂を流し始めました。イエス様が悪霊に憑りつかれているとの噂です。しかも、悪霊の頭ベルゼブルに憑かれていると断定しました。そうでなければ、こんなことはあり得ないと流布します。イエス様はどれほど悔しかったでしょうか。食事の時間も惜しんで天国を伝え、癒しを通して天国を顕しているのに、悪霊の頭だと言うのです。驚くべきことは、母マリヤでさえこのこの噂に惑わされ、兄弟たちを連れてイエス様を取り押えに来たことです。私たちは悪魔悪霊に対してあまりにも無知であることに気づかなければなりません。

黙示録にサタンは全世界を治めているとの記述があります。二頭の獣がその象徴です。一頭は経済を支配する獣であり、もう一頭は政治を支配する獣です。悪霊は、富・権力を用いて人間を支配しようとします。さらにこの獣たちの上に淫女が乗っています。快楽の道具を用いるのです。悪魔悪霊は、巧妙に、気付かれることなくアプローチをしてくることを知るべきです。教会にも静かに入り込んで来るのです。

イエス様は超自然的方法で、病を癒し、悪霊を追い出し、波風を鎮められました。律法学者たちにはとうてい理解できないことでした。恐怖も感じたはずです。だから、根も葉もない噂を流したのです。イエス様は例え話を用いて、論理的にその主張を退けました。国で内紛があれば、その国は立ちいきません。家庭も同じです。そして、明確に論破された後、最も重要な発言をされました。それは、聖霊様を冒涜することは絶対に赦されないことです。私たちは軟弱で意志が弱く、失敗や過ちを犯し続けます。でも、それは悔い改めれば赦されることです。しかし、聖霊様を否定してしまったら、救いの機会を全く失ってしまうことを教えてくださいました。

聖霊様によらなければ、誰もイエス様を救い主として受け容れることはできません。聖霊様によらなければ、御言葉を悟ることも、信じることもできません。つまり、聖霊様を否定してしまったら、救われる道が閉ざされるのです。イエス様を信じたこと、受け容れたこと、礼拝に来ること、すべてが聖霊様の導きです。その祝福の道が閉ざされることは、永遠なる命を放棄することであり、取り返しのつかない結果を招くから、絶対に聖霊様を冒涜するなと言っているのです。完璧な人間など存在しません。皆、失敗をします。過ちを犯します。だからこそ、聖霊様を認め、歓迎し、もてなし、すべてを委ねるのです。

「神の霊によって語る者はだれも『イエスはのろわれよ』とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」（Ｉコリント 12:3）　聖霊様こそ、助け主だからです。†

12 月の贈り物、チョー・ヨンギ牧師

投稿｜パク・ジョンヒ

牧師であった夫との死別。30 代で未亡人になったイ・エステル牧師夫人。院長として「霊性院（ヨンソンウォン）」を支えるだけでも大変であったはずなのに、「独り牧師夫人宣教会」を創立し、不幸に遭った会員の世話もしてきた彼女が、これまでどのような困難な道を歩んでこられたのかを見ていきます。

担任牧師であった夫チャン・ギョンファン牧師が胃がんで突然亡くなられた時、彼女は 37 歳でした。中学 3 年生の長女から小学 3 年生の息子まで、二男二女の子供たちをかかえて生きていかなければならなくなった彼女の心中は、いかばかりであったことでしょう。

普通であれば絶望に打ちひしがれるところですが、彼女は違いました。彼女は中学 2 年生の時に聖霊体験をし、ドンニンムン・ホーリネス教会のイム・ヨンジェ牧師から徹底的な信仰訓練を受けました。早天と徹夜の祈りで訓練されている信仰の勇者でした。

昔のようにバレエ教室を運営しながら、中学・高校のバレエ講師として働けば、経済的に困らず生活できる自信が彼女にはありました。しかし、彼女はその道を選びませんでした。「夫のバトンを引き継ぎ、牧会者の道を歩みなさい」という神様からの召命に「アーメン！」と応答したからです。

1998 年の春、国民日報（韓国のキリスト教系の日刊新聞）の編集長をしていた私は、イ・エステル牧師に初めて出会いました。当時はまだ珍しかった女性牧師が本を出版したいと、私に原稿を持ち込んできたのです。「細身できれいな顔立ちの執事」という第一印象でしたが、牧師だと聞いて驚いた記憶があります。

私は心からこの女性牧師を助けようと思い、ていねいに本を作っていきました。その本が、まさにあの『主よ、片手だけ掴んでください』だったのです。初めての出会いから 23 年。彼女はどんな困難に出会っても、祈りで打ち勝つ「信仰の女性」であり、断食の祈りを重視する牧師です。

ここからは、イ・エステル牧師から聞いた話を一人称形式で伝えていきます。

早天の祈りでいただいた「約束の御言葉」

「独り牧師夫人宣教会」の創立礼拝をキム・ジンホン牧師を招いて捧げました。その時は、これから迫ってくる苦難がどんなに厳しいものなのかを予想すらしていませんでした。さまざまな苦難や困難に直面する度に人間的な限界を痛感しました。

しかし、主が私にくださった使命という確信と信仰があったため、決してあきらめませんでした。未亡人となった牧師夫人の痛みを一番よく知っている私が、私についてくる会員を見捨てることはできなかったのです。

180 年前、イギリスで数多くの孤児を育てたジョージ・ミュラー牧師は、祈りと御言葉を通して、神様だけを頼りにして孤児院を運営しました。人生で 5 万回もの祈りの答えを受け取ったと言われるジョージ・ミュラー牧師のことを思うと、心が慰められ、勇気を得ました。

しかし、現実は使命感だけで全うできるほど甘いものではなかったのです。増えていく会員（独り牧師夫人）の世話をすればするほど、財政が悪化し、借金が膨れ上がりました。これ以上はもうダメだと、あきらめかけたことも何度かありました。大変な時ほど、霊性院の祈祷室でさらに祈りました。私の心を完全に告白しながら、神様の助けを切に求めました。

「主よ、どうすればいいでしょうか？　独り牧師夫人への支援金を減らすべきでしょうか？　銀行からの借金に耐えられなくなりました。主よ、助けてください」

一生懸命に祈っても、生活は相変わらず苦しかったので、辛い期間が続きました。そんなある日、早天祈祷の時間にとても短い一言をいただいたのです。

「今後の必要な経費は私が与える」

神様がくださった約束だと確信しました。

英語版『主よ、片手だけ掴んでください』出版記念会

主から約束をいただいたからには、良いことが必ず起こると期待に胸を膨らませました。ちょうどその頃、Amazon から販売開始された書籍『Lord, grab my one hand』の出版記念会を 2011 年 1 月に「霊性院」で開催しました。

「独り牧師夫人宣教会」の創立 4 周年を迎え、1998 年 6 月に国民日報から出版された『主よ、片手だけ掴んでください』を英語に翻訳したのが『Lord, grab my one hand』でした。この本が出版されてから、「独り牧師夫人宣教会」の活動が軌道に乗り、世界に広く知られるようになったので、さまざまな集会から招待さ

れるようになりました。

英語版もAmazonから販売されることで、すぐにでも支援者が世界中から集まるのではないかと、私は思いました。他人に話しませんでしたが、神様から約束をいただいたのもあり、とても期待していたのです。

1ヶ月2ヶ月と時間は流れていくのに、私が待っている「良い便り」は来ませんでした。一年が過ぎても、特別なことは一つもありませんでした。「私の考えが間違っているのかな？　私が勘違いしていたのかな？」と疑いと失望の気持ちが心に湧いてきましたが、「そんなことはない」と否認しながら、祈り続けました。

予想外のところから聞こえてきた「良い便り」

気がついたら、一年最後の12月でした。国民日報の創刊23周年記念イベントにて、私が小さな賞（功労表彰）を受けることになったと聞きました。最初は「まあ､大したことでもない」と思っていました。ところが、後から意外な良い便りを聞いたのです。驚いたことに、チョー・ヨンギ先生が賞を直接授与してくださるというのです。

私にとってそれは単に良い知らせではなく、素晴らしい大事件でした。チェ・ジャシル先生とチョー・ヨンギ先生は、私が本当に尊敬する方だったので、近くでお会いできるだけでも、大きな喜びでした。義母と婿の2人が力を合わせて世界的教会を開拓した偉業に、私は最も特別なものを感じていました。私も空軍士官学校出身の婿（牧師）と一緒に働いていたからです。

いよいよ12月14日の授賞式が来ました。「おめでとうございます」と、チョー・ヨンギ先生が穏やかな笑顔で言われました。私はお礼の挨拶をしながら、あらかじめ用意しておいた一言を言いました。「チョー先生に推薦文を書いていただいたおかげで、私の本がたくさん売れました」。

13年前にシン・ヒョンギュン牧師を通して依頼した、チョー先生からの推薦文のことを話しました。チョー先生がそんな小さなことまで覚えているとは思っていませんでしたが、先生はうなずきながら笑いました。そして、授賞式が終わったあとは、受賞者が一堂に集まって食事する時間でした。少し緊張している私に対して、チョー先生は向かいの席を指しながら、そこに座るように促されました。私にとって大きな幸運であり、栄光でした。私よりも有名な受賞者がたくさんいるのに、チョー先生と同じテーブルに座ることになったのです。

人生最高のクリスマスプレゼント

おいしい料理が目の前にありましたが、それには手をつけずに、チョー先生との会話だけに集中しました。チョー先生が私を見ながら言いました。

「独り牧師夫人宣教会の働きはとても重要で、院長はその働きにふさわしい方です」

「私は人を見る目がありますよ。イ・エステル院長は本当に素晴らしい人です」

ああ、その言葉によってどれほど慰められたことか。

「先生は私のことは知らないはずなのに、どうしてこのような

言葉を私に言ってくださるのだろう？」
　儀礼的な言葉だったとしても、神様がチョー先生を通して私に暖かい慰めをくださったと思うと、とても感激して目頭が熱くなりました。

　いろいろな話をしながら食事をしていたチョー先生が意外な提案をされました。
「その働きの現場に一度行ってみたいです。私を招待してください」
　そう言われた瞬間、嬉しさのあまり私は深々と頭を下げて、こう言いました。
「先生がいらっしゃるのでしたら、大歓迎です。ありがとうございます！」
　私があまりにも大きな声で答えたので、少し恥ずかしくなったのですが、気にしませんでした。

　私が初めて出版した書籍『主よ、片手だけ掴んでください』には、チョー先生からの推薦文があります（シン・ヒョンギュン牧師、キム・チャンファン牧師、リ・ジュンピョ牧師からも推薦の言葉をいただきました）。チョー先生の推薦文のおかげで、人々に知られるようになり、「独り牧師夫人宣教会」の活動にも大きな助けとなりました。私はチョー先生に対して感謝の気持ちを常に持っていました。それで、いつしかチョー先生を招いて集会を開くことが、心の中の切なる願いとなり、祈りの課題となっていました。

　その願いが一番良い方式で叶いました。300 人ほどの集会にチョー先生を招待することは失礼だと思って遠慮していたのですが、チョー先生自らが提案されたので、驚きました。しかも、頼むような感じで言われたので、本当に信じられませんでした。

　神様の摂理が想像以上に素晴らしいのは、なぜでしょうか。あの時は興奮しすぎたせいで食事の味はまったく覚えていませんが、周囲のざわめきの中からお祝いの声が聞こえてきました。
「おめでとうございます！　イ・エステル牧師」
「今日はすごいですね」
　今振り返ってみても、人生の中で最高のクリスマスプレゼントでした。

チョー・ヨンギ牧師を招待して行われた「独り牧師夫人の日の特別イベント」

　チョー先生のスケジュールに合わせて、翌年 3 月 8 日にチョー・ヨンギ牧師を招待しての「独り牧師夫人の日の特別イベント」を

開くことになりました。約束してから３ヶ月後のことでした。

チョー先生は国家朝餐祈祷会などの行事が重なって忙しいにもかかわらず、約束の時間より少し早く来られました。私は義理の息子であるチャン牧師と一緒にチョー先生を迎え、霊性院の内部を案内しました。断食しながら祈る方の健康を考えて、身体と環境にやさしい建築資材だけを使って建てたことを自慢げに話しました。床は天然竹で、壁は太平洋の珪藻土（けいそうど）であるサンゴ石で、廊下と天井はイエス様の絵で有名なキム・ヨンソン画伯の大型聖画を飾るなど、精魂を傾けて作り上げた聖殿なので、自信を持って説明することができました。

チョー先生は興味を持って隅々を見て回り、断食祈祷をするのにとても良い祈祷室があり、神様の恵みに満たされている聖殿であると、褒めてくださいました。そして、先生から「独り牧師夫人宣教会」の現状と課題について細かく聞かれました。それについて私が説明すると、チョー先生はかなり共感しながら、励ましてくださいました。そして、チョー先生は義理の息子であるチャン・ドクボン牧師を見つめながら言いました。

「天に召されたチェ・ジャシル先生と共に伝道していた頃を思い出します。私のように、チャン牧師もスケールの大きな義母に出会ったので、とても疲れるでしょう」

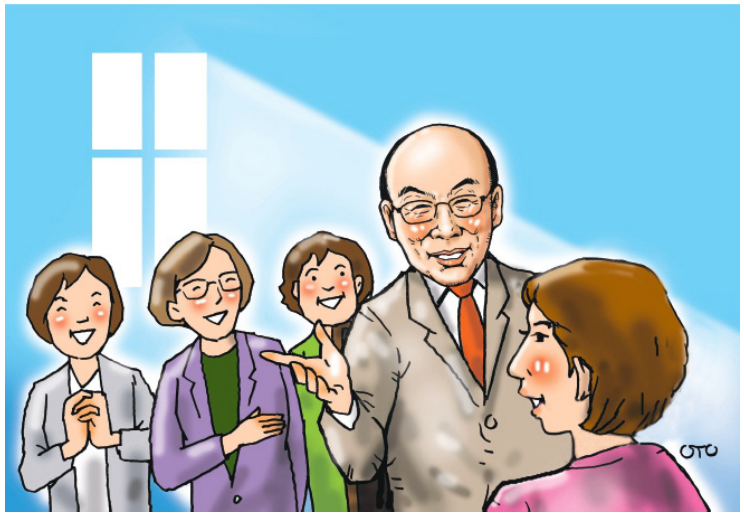
その一言で緊張していた雰囲気が笑い声と共に柔らかくなりました。礼拝ではチョー先生がメッセージを語られました。300人にも満たない参加者でしたが、感動的で素晴らしいメッセージを伝えてくださいました。会員皆のわだかまりが一気にとける慰

めの時間となりました。「アーメン、アーメン！」と大声で答える人。涙を流す独り牧師夫人の会員たち。その姿を見ながら、私の心も報われた思いでした。

間近で聞いていたチョー先生の説教は評判通りでした。とても甘くて暖かい神様の恵みでした。語られる言葉すべてが私に与えられた神様の慰めでした。「独り牧師夫人の宣教会」を創立して、18年間積み重なった疲労とストレスがきれいに解消されました。

信仰の祈りに答えてくださる神様

礼拝後の交わりでは、チョー先生が「愛と幸福の分かち合い財団」の名義で特別後援金をくださいました。世界的な牧師を招待した場合、こちらが謝礼を差し上げるのが礼儀ですが、むしろ後援金をいただくなんて、申し訳ない気持ちになりました。その時、神様の約束をふと思い出しました。



「今後の必要な経費は私が与える」
神様の約束を固く信じてから１年以上祈りましたが、この日にチョー先生を通して神様が答えてくださったのです。その日以降もチョー先生からの後援は続きました。

神様の大いなる恵みの中で、すべての行事が終わりました。明るく笑いながら帰られるチョー先生の表情は月のように明るく見えました。国内外の各地から招待され、いつも忙しい神の僕であるチョー・ヨンギ先生を、神様が霊性院に送ってくださるとは！　しかも、慰めのメッセージとともに後援金までいただき、神様が働かれる方法はいつも「想像以上」です。

神様は信仰の祈りに必ず答えてくださいます。それも神様の特別な方法で答えてくださいます。神様は信仰の祈りを喜んで受け取ってくださいます。奇跡の神様､答えてくださる神様に向けて、私は今日も祈ります。
「主よ、感謝します！　主だけが栄光を受け取ってください」

尊敬するチョー・ヨンギ先生が、2021 年 9 月に天国に召されたというニュースを知って、私は心臓が止まるような痛みを感じました。大きなショックを受けました。とても残念で悲しい便りでした。

時間は流れ、再び 12 月がやってきました。10 年前のことが昨日のように思い出されます。国民日報の授賞式と食事会､そして、チョー先生が霊性院に来られ、歓談を交わして、説教を述べられた場面が、目を閉じればまぶたに浮かびます。†

✤ユ・ジョンオク牧師婦人の信仰物語

忘れられない贈り物

40 年前、私たちは駅村洞の西部市立病院のそばの長屋に住んでいました。近くに小さな教会があり、教会員は病院の入院患者とその家族でした。西部市立病院には貧しい肺結核患者が入院していたので、社会から疎外された場所のようでした 。

私が幼い息子を連れてその教会に初めて行った時、多くの聖徒が心配して「私たちの教会には来ないほうがいい」と言いました。牧師も「うちの教会の事情をよく知らずに来られたのですね。うちは肺結核患者たちの教会で、感染の心配があります。今後は他の教会に行ってください。小さい子を連れて来ては絶対にいけません」と言いました。

病気にかかった貧しい人々の教会であることに、私は胸が痛みました。そのため、牧師と聖徒から繰り返し注意されましたが、出席し続けました。聖徒の皆さんは私を次第に受け入れて、門の外で待っていてくれるようになりました。

「若くて健康な一人の聖徒が暗い教会を明るくして、ここが肺結核患者の教会だということを忘れさせてくれる」と彼らは言いました。彼らが必要とする物資を買ってあげたり、彼らの話を聞いたりして、聖徒たちと１つの家族のようになりました。

最高のクリスマスプレゼント

当時イエス様を信じていなかった私の夫は、私が普通の教会に出席することすら反対していました。ですので、「夫がこの教会のことを知ったらどうしよう？」と心配で、教会のことは一言も話していませんでした。

あるクリスマス・イブの日、「僕はあなたに永遠に忘れられないクリスマスプレゼントを贈る」と、夫が私に宣言しました。

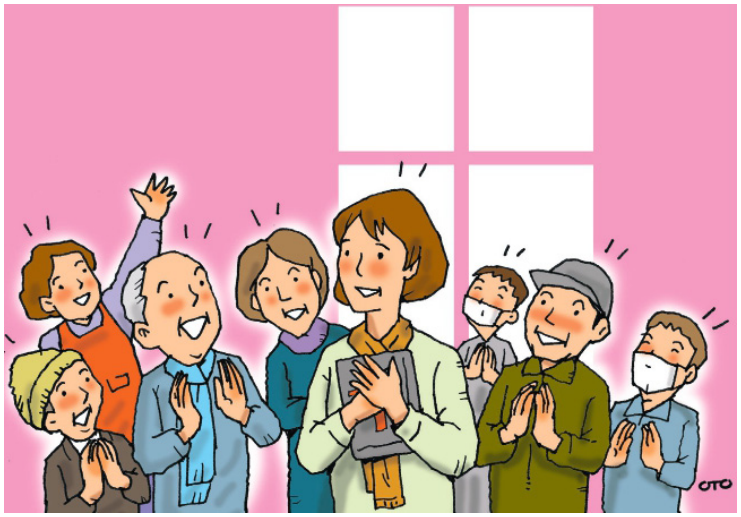
結婚前は宝石を扱っていた夫は、私が宝石好きではないのを知らず、何度か宝石をプレゼントして、がっかりしていました。そこで夫は「宝石も嫌い、お金も嫌い。君が欲しい物は何だい？
好きな物は何もないの？」と、私によく尋ねました。

その夜遅くなっても、夫からプレゼントの話はありませんでした。内心期待しておりがっかりしましたが、早く寝た夫にすねても仕方がなかったので、翌日、私はいつものように教会に出かけました。

礼拝堂の正面には、クリスマスのせいか、リンゴやみかん、下着などの箱がぎっしりと積まれていました。

「誰かが貧しい病気の人々を思って用意されたのだ」と思いながら、私は礼拝を捧げました。すると突然、牧師が「クリスマスの今日、私たちの教会に、こんなにたくさんのリンゴとみかん、暖かい下着をプレゼントしてくれたのは、ユ・ジョンオク姉妹です」と言うではありませんか！

私は驚いて「私ではない」と必死に否定しました。すると牧師は、「今日の午後、ユ・ジョンオク聖徒の使いだと言って、旦那さんが持って来られました。ユ・ジョンオク姉妹の旦那さんはイエス様をまだ信じていませんが、これからはイエス様を信じ、さらに神の僕となるようにお祈りしましょう」と話し出しました。感激した聖徒たちは涙で祈り始めましたが、その時最も多くの涙を流



したのは、私だったことでしょう。

私は夫に「今まで私がもらったプレゼントの中で最高のクリスマスプレゼントだった」と言い、夫は「君が一番喜んでくれるプレゼントをやっと見つけた」と喜んでいました。

貧しく病んだ人々の祈りは神様に届くと言われますが、その聖徒たちの祈りの力は何と大きかったことでしょう！彼らの祈りから５年後、夫はイエス様を受け入れ、その翌年には神学を学び、牧師になりました。

そばにいてくれるだけで…

夫と私は、貧しい人々と病人に親しみを感じるようになりました。それで、脳性マヒ患者たちの教会で最初の牧会を始め、彼ら

に仕えました。障害者として生まれ、家族から捨てられ、孤児院で育ち、市場や大通りでタワシなどを売って共同生活をする人々の中に入り、私たちは１つの家族のようになって暮らしました。そして、2004 年から一日も休まず、ホームレスに無料給食を提供しています。

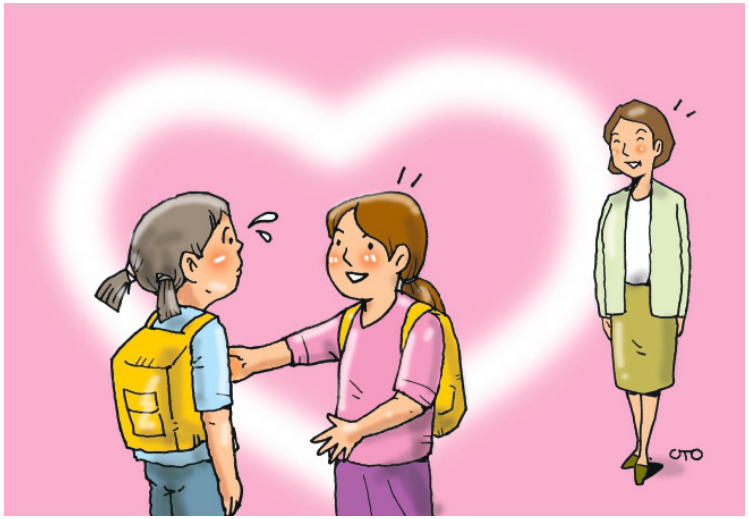
昨年１月から始まった新型コロナの狂騒は、あるべきものを根こそぎ奪い去りました。皆一緒という美しい関係が消え、一人ぼっちの世の中になりました。愛する人を思い浮かべて、お互いにプレゼントを準備し合ったクリスマスまで奪われました。

今年のクリスマスはとても静かです。
私の心は、ホームレスの人々に防寒着、下着、マフラー、手袋、靴下、レインコート 、カイロ・・・・何でも分けてあげたい気持ちでいっぱいです。

しかし、今年は、ホームレスの人々に「クリスマスプレゼントを配ることができなくて、ごめんなさい」と言いました。すると、あるホームレスの方が「奥様が私たちと一緒にいてくれることが、私たちには最大のクリスマスプレゼントです」と言い、その場にいたホームレス全員が拍手してくれました。

神様が私たちにくださった一番大きな贈り物はイエス様です。
「見よ、おとめがみごもって男の子を産むであろう。その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。これは、『神われらと共にいます』という意味である」（マタイ 1:23）

神様が私たちと一緒にいてくださるように、貧しさと苦痛の中



にいる人々が私たちを必要とする時、心を尽くして彼らのそばに一緒にいるという最高のクリスマスプレゼントに私たち自身がなれますように。

神様が今年の私にくださったプレゼントは、コロナ禍の２年間、ホームレスの誰一人もコロナに感染せず、一日も休まずホームレスの人々に仕えながら、一緒に暮らせるようにしてくださったことです。

ふと、アメリカにいる孫娘を思い出しました。孫娘が５歳の時、幼稚園の先生が「あなたのお友だちが運動場で泣いています。どうしてあげますか？」と質問しました。幼稚園の掲示板に掲載された孫娘の答えに、多くの人が感動したそうです。

ユ・ジョンオク

『尊い人々』のユ・ジョンオク牧師婦人は、2005 年からホームレスへの無料給食と憩いの場の提供を開始し、現在はハイチ、ミャンマーなど海外５カ国で働く。2018 年から行くあてもなくケアも受けられない極貧の末期癌患者のための「大切な人々ヒーリングセンター」を設立。患者を信仰の中で養育し、愛で世話をする働きを実践している。著書はベストセラーの『泣いている人と一緒に泣けて幸せです（2004）』や『言わなくても聞こえる声（2013）』など。

ジアナリの答え
『泣いている友だちを抱きしめてあげます』
『友だちのお母さんが来るまで、一緒にいてあげます』

困難に直面した人々のそばに一緒にいるだけで貴重な贈り物になることを、幼い孫娘がすでに悟っていたことを知って、私はただ神様に感謝です。✝

✤ 霊的リーダーシップ

イ・ヨンフン 牧師 / ヨイド純福音教会

霊的指導者が聖霊でいつも満たされるためには、熱心な祈りの生活を日常的に送らなければなりません。常に祈らなければなりません。祈りの火が強く燃えてこそ、聖霊に満たされるのです。聖霊のみわざは祈りの教会に起こります。

さまざまな問題で苦しんでいたロサンゼルス純福音教会に、私が仕えることになりました。すべての問題が解決されるまでの9ヶ月間、私は一日も欠かさず早天礼拝を捧げました。主日でも明け方4時には教会に行きました。そのように祈っていると、教

会の問題が1件ずつ解消されるどころか、教会がリバイバルし、財政も回復しました。

これこそまさに聖霊のみわざです。私はただ夜明けに起きて祈っただけでしたが、聖霊様が働いてくださったのです。聖霊様に捕らえられ、聖霊様の力にあずかって生きていく人が真の霊的指導者です。

イエス様の一生は、祈りの一生でした。イエス様は夜通し祈ってから、12人の弟子を選ばれました。夜を明かして祈られたイエス様は、その祈りの力で神様のみわざを完全に遂行されました。また、イエス様は夜明けの祈りで一日を始められました。十字架にかかって死なれる前にも、イエス様はゲッセマネで夜が明けるまで祈られました。霊的指導者がイエス様のように祈る時、神様がすべてを成し遂げてくださるのです。

早天祈祷は韓国教会の伝統

韓国のキリスト教史において、早天祈祷の元祖は平壌（ピョンヤン）のチャンデヒョン教会の聖徒たちです。私がアメリカで神学の勉強をしていた頃、古文書保管所で資料を探していると、宣教師たちが送った手紙形式の宣教報告書を見つけました。

1907年、リバイバルの気運が高まっていた平壌のチャンデヒョン教会で、大きな集会が開かれました。その集会は聖書を解き明かす勉強会形式でしたが、集会は午前・午後・夕方と毎日3回ありました。ある日、どれほどの恵みが臨んだのか、夕方の聖書勉強会が終わっても聖徒たちが家に帰らず、夜中の12時過ぎまで祈っていました。集会を導いていた宣教師が、疲れているだろう

から、もう家で休んで、翌朝に出直すように勧めたところ、聖徒たちはようやく帰宅しました。

ところが、聖徒たちが受けた恵みはどれほど大きかったのでしょうか。聖徒たちは感激のため眠れず、教会に行って祈りたいと、夜明け前にもかかわらず教会に出かけ、うろついていたそうです。教会の管理執事が外からの騒ぎを聞いて目を覚ますと、教会の扉を開けて聖徒たちを中に入れました。聖徒たちは礼拝堂に入るやいなや、誰に命じられたわけでもないのに、ひれ伏して祈り始めました。韓国教会の早天祈祷はこのように始まりました。

その時、その早天祈祷の現場にキル・ソンジュ長老がいたので、韓国教会には彼を早天祈祷の創始者とする説もあります。平壌のチャンデヒョン教会で始まった早天祈祷の伝統は、今日の韓国まで続いており、世界中に驚かれています。私たちはこの早天祈祷の伝統を最後まで継承しなければなりません。

霊的指導者は朝早く起きるべき

朝早く起きると、体は疲れているかもしれませんが、霊は澄んでいます。早天祈祷の礼拝に出て、御言葉を聞いて祈ると、神様が特別な恵みを注がれ、神様のあふれる臨在の中で一日を始めることができます。特に霊的指導者は朝早く起きて祈らなければなりません。他人より早く起きて神様の御前に進み出て、神様の声を聞き、神様が与えられる力で一日を過ごすとき、共同体を正しい道に導くことができるのです。

聖書には祈りの驚くべき力について書かれています。

「神がその中におられるので、都はゆるがない。神は朝はやく、これを助けられる」（詩篇 46:5）

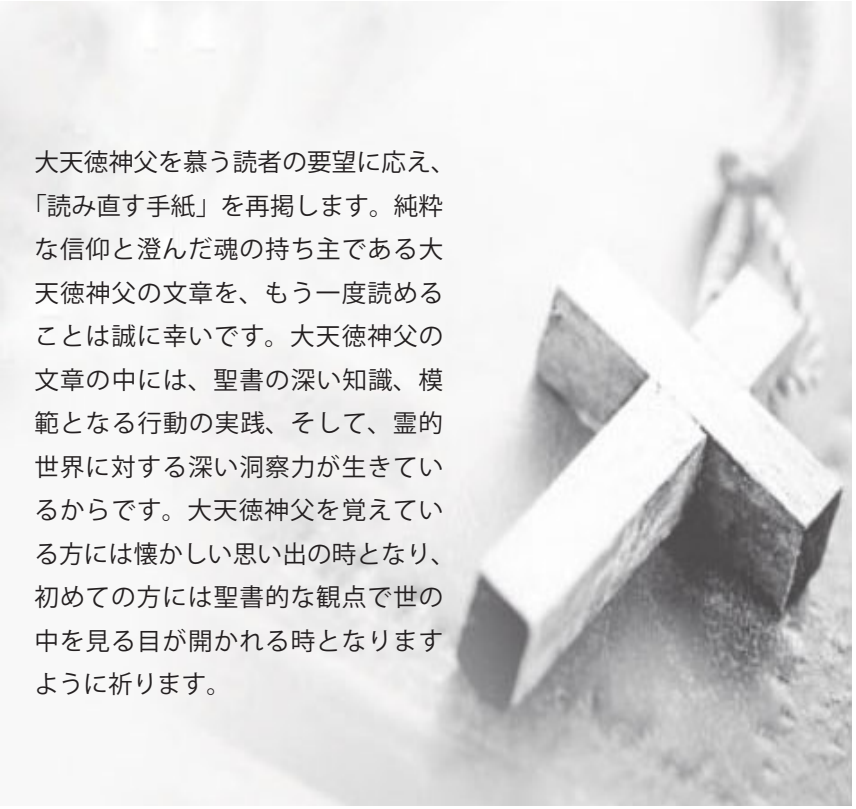
「地を造られた主、それを形造って堅く立たせられた主、その名を主と名のっておられる方がこう仰せられる、わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す」（エレミヤ 33:2 ～ 3）

今日、多くのクリスチャンは祈りの重要性を認識していません。生活が豊かになったので、祈る必要性を感じることが少なくなりました。生活が豊かで経済的な困難がないとしても、必ず祈らなければなりません。祈りは霊的な呼吸だからです。食べないと肉体が衰弱するように、祈らなければ霊性が枯れていきます。だから、忙しくても祈りを欠かしてはいけません。祈りは人生の選択事項ではなく、必須事項です。人生のあらゆる場面において、祈りが最優先であるべきです。

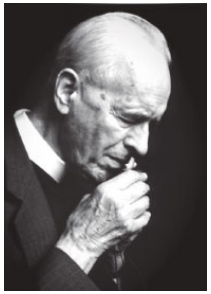
宗教改革者マルティン・ルターは、彼の友人に祈りの重要性について次のように言いました。

「『ちょっと待って。祈りをしばらく先送りして、目前の事柄から処理しよう』このような考え方をすると、祈りから遠ざかり、その日は祈れなくなる。祈りと同じくらい重要か，もっと重要に見える事案を急いで処理しなければならない時もあるけれど、私たちは常に祈りを最優先にしなければいけない」

霊的指導者は祈りの人でなければなりません。他の誉め言葉より「あの人は祈る人だ」と言われなければなりません。どんなに忙しくても、祈ることを後回しにしてはいけません。祈りの時間は無駄な時間ではなく、祈りは最短の近道であり、物事を成し遂げる強い力なのです。他の何よりも祈りに励む霊的指導者にならなければなりません。†



大天徳神父を慕う読者の要望に応え、「読み直す手紙」を再掲します。純粋な信仰と澄んだ魂の持ち主である大天徳神父の文章を、もう一度読めることは誠に幸いです。大天徳神父の文章の中には、聖書の深い知識、模範となる行動の実践、そして、霊的世界に対する深い洞察力が生きているからです。大天徳神父を覚えている方には懐かしい思い出の時となり、初めての方には聖書的な観点で世の中を見る目が開かれる時となりますように祈ります。



デ・チョンドク神父（R. A. Torrey 三世）

918 年、中国山東省で長老教会のアメリカ人宣教師の息子として生まれ、中国と平壌で幼年時代を過ごしました。アメリカのプリンストン神学校で学び、聖公会に席を移したあとは、1949 年に聖公会の司祭となりました。1957 年に韓国に来て、2002 年に召天するまでの 45 年間、韓国で主の働きをしました。1965 年、江原道太白市にイエス院を設立して活動しているうちに有名になり、聖霊論と共同体に関する教えを通して、韓国の教会とクリスチャンに大きな影響を与えました。

私が引き受けた神様の働きに他の候補者はいますか？

“ 私から尊敬する先生への質問は、神様の主権に関することです。人間が神様のご計画を無にすることは可能でしょうか。全能なる神様はその人が従順するかどうかをご存知ですので、最終的にはご自身の計画を遂行されると思います。もし、私が神様に従うことを拒否しても、神様は私に直接働かれ、私の不従順は神様には影響しないというのが私の考えです。もし、私が神様に従わなければ、神様はその仕事を他人に託すのでしょうか？ ―コ・ヨナより ”

愛するヨナ兄弟へ

お手紙ありがとうございます。あなたからの質問は、神の主権を信じる人々をよく悩ませる質問の一つです。人間の自由意思が神様の働きにどのような影響を及ぼすのか、このことについて理解するのはとても難しいです。もし、誰かが神様に従うことを拒否した場合、神様はその仕事を託せる他の人を探すのでしょうか。まず、不従順によって神様のご計画が霧散してしまったいく

つかの場面を見てみましょう。

アダムとエバの不従順によって、全ての人類に呪いがもたらされました。彼らの不従順の結果に対して、人類は莫大な代価を払わなければならなかったのです。

モーセはエジプトに行くように命令された時、こう答えました。「私にはできません。主よ、他の人をつかわしてください」。もし、モーセが神のご計画を最後まで拒否していたら、イスラエルの民は再び 400 年をエジプトで過ごさなければならなかったかもしれません。その働きを担える人物が他にはいなかったからです。

カナンの地を偵察してきた 12 人の斥候のうち 10 人は、カナン人が自分たちより強いので、その地を治めることは不可能だと答えました。しかし、彼らのうちの 2 人、カレブとヨシュアだけが、神様の助けがあるので、カナンを征伐できると答えました（民数記 13 章 25~33 節）。10 人の不従順の結果、イスラエルの民は荒野で 40 年を過ごすことになりました。

また、ヨナの場合を考えてみましょう。彼が敵国アッシリアの首都ニネベに行き、叫ぶことを最後まで拒否していたら、その街の人たちはどうなっていたのでしょうか。彼らは皆、滅亡したに違いありません。なぜなら、その時から神様の審判までの期間はわずか 40 日しか残っておらず、イスラエルの民の中でヨナの代わりとなる候補者はいなかったからです。

もし、神様がヨナの代わりにその事を行える他の人を見つけて

いたら、彼を飲み込むような特別な魚をわざわざ用意するでしょうか？　それよりヨナに代わる他の人を探して送る方が良かったのではないでしょうか。他にも、ソロモン、レハベアム、アハブなど、数え切れないほど多くの人々の物語はどうでしょうか？彼らは神様の命令を拒否した結果、多くの災難をもたらしたのです。

他にも与えられた使命を果たさなかったことによって生じた災難に関する記録が数えきれないほど多くあります。フビライ・ハーンはモンゴル帝国第 5 代皇帝であり、元の初代皇帝でした。彼の母がクリスチャンだったせいか、彼自身も自分はクリスチャンだと思っていました。そのため彼は元をキリスト教国家にしようと考えていたのです。彼はローマ教会に使節を送り、100 人の宣教師を送るよう要請しました。

しかし、ローマ教会では宣教師 2 人だけを派遣しました。98 人の宣教師たちは、行くことを自ら拒んだのか、ローマ法王の指示だったのかはわかりません。このことに元の皇帝はひどく怒り、18 の州にあった既存の教会さえ破壊してしまい、仏教国にしたのです。

これと同じような霊的な原理が、今日の私たちにも当てはまると思います。私が通っていた大学のアメリカンフットボールチームには、アメリカ国内でも屈指の選手が一人在籍していました。しかし、相手チームは、主力選手はその一人だけで、他に主力となる候補者がいないことがわかると、試合中はその選手を疲れさせることに注力しました。その選手を活躍できなくさえすれば、彼らの勝利だと思っていたのです。

その結果、試合後半になると、その主力選手はいつも疲れ果ててしまいました。彼の選手生命にも大きな支障が出てしまい、卒業後、彼はプロの世界に行くことをあきらめ、義父の経営する会社に就職し、会社員としての人生を送りました。

以上のことから悟るべきことがあります。それは、神様は他の候補者をお持ちでないということです。神様は一人の人にするべき事を任せられるのです。そして、私たちが引き受けた働きを果たさなければ、その働きは未処理のまま残ってしまうのです。

神様の御前で誓った青年たちの弁明

神様が一人の若者をイエス院に行かせました。当時の彼は、山間部の恵まれない人々のために神様が自分を呼ばれたと信じていました。彼はイエス院のような共同体に必要な人でした。

ただ、彼は韓国のある有名な神学大学を首席で卒業し、神学修士課程さえ修了すれば神学校で教授として採用されることになっていました。結局、彼は山間部に長く留まることはせず、イエス院からの要請も断りました。それ以来、神様は彼の代わりを送ることは一度もされませんでした。

私は今でもイエス院で 2 年半の訓練を喜んで受けてくれる働き手を待っています。その人が私の代わりに教える仕事を引き継いでくれれば、私は引退できます。私は 72 歳です。私は教えることは上手でもなく、やり遂げる気力ももうありません。

私は 1980 年にヨイド広場で開催された世界福音化聖会に参加

しました。あの時、私は民族福音化と世界福音化のために自分を捧げると手を上げた大学生を数多く見ました。あの若者たちは、皆どこに行ってしまったのでしょうか。私はとても心配しています。あの時、神様の召しを聞いたと告白していた若者は一人や二人ではありません。

「神様はまた別の候補者をお探しになるだろう。神様は私みたいな人を必要としていない。　私一人が抜けたからといって、神様が寂しがることはないだろう」

あの数千人の若者たちはこのように結論付けたのではないかと心配しています。神様が全く望んでもいないことをするために、神様に背を向けたのではないでしょうか？　ヨナ兄弟、その若者が神様の仕事をしなかったら、誰がその仕事をしているのでしょうか？

神様は他の候補者をお持ちではありません。もし、神様が兄弟にやるべきことを任せたのであれば、神様はあなた以外の他の候補者を持つことはされないのです。このことをわかってください。クリスチャンの皆さんも同じです。「皆さんはそれぞれ神様から使命を受けています。その働きはあなただけのものです。あなたがその仕事をしなければ、それは未完のまま残ることになります。神様が働きなさいと召される時、そのまま進んでください」。†

「イスラエルの人々に言いなさい、『地にあるすべての獣のうち、あなたがたの食べることができる動物は次のとおりである』」（レビ記 11:2）

ヘブル的な価値観では、最も大切なものを真ん中に置きます。モーセ五書の中心に位置する章がレビ記 11 章です。この章は隠された宝石のようなものです。

レビ記は 11 章が最も重要です。ヘブル的な観点では、真ん中は隠された秘密がある場所です。大切だから隠すのです。密かに

貯めたへそくりは、本を開いた途端に見つかるような最初のページにはさむ人はいないでしょう。本能的に真ん中のページに深く隠すものです。

このように最も重要な 11 章では、私たちが食べてよいものとそうではないものが示されています。これは現在の私たちにも与えられた食生活に関する神様の命令でしょうか。言及されているこれらの動物は汚れと聖の属性を持っているのでしょうか。

ユダヤ人の「食物規定」に関する考え方として、聖と汚れを決める権限は神のみにあるとしています。それゆえ、規定が設けられた理由に焦点を合わせるのではなく、規定に対する従順さにより多くの力を注ぎます。

アダムとエバがエデンから追放されたのは、善悪を知る実を「食べた」からです。食べるとは、すべての人間の基本的欲望であり、生命の活動源です。ですから、食べることに対する服従こそ、生き方全体を示す礼拝になります。エデンの唯一の戒めは、善悪を知る木の実を食べてはならないでした。ですが、その「食べるに良く、目に美しい」果物を食べないという節制ができなくなったとき、結果は悲惨なもので、まさに自分の人生と世界が崩れ落ちたのでした。

食べるとは？

人は誰でも、自分が食べたいものを奪われつつ成長してきました。口に入れようとすると「汚い！」と怒られた経験、こうした喪失経験はすべての人が記憶以前の記憶に持っています。食べる

ことに対する自分の意志と嗜好を曲げることこそ、服従の絶対的表現です。イエス様も荒野で受けた最初の試みは、まさに飢えと貪食につながる最も大きな欲望をあきらめることでした。「食べる」という主体的欲望の根源を神様に差し出す行為を通して、自我をなくした人生となるのです。

食べることは「私たちの人生はいかに生きていくべきか」につながります。医学の父と呼ばれるヒポクラテスは、「私たちが食べるものがすなわち、私たち自身だ」という名言を残しました。食べるとは、すなわち、自分がどういう人間かを示すのと同じであるというのです。

「獣のうち、すべてひずめの分かれたもの、すなわち、ひずめの全く切れたもの、反芻するものは、これを食べることができる」(レビ記 11:3)

食べることのできるものは、「ひずめの分かれたもの、反芻するもの」とあります。ひずめが分かれたというヘブル語の語源は「パーラス(סרפ)」ですが、「割る」「分け与える」という意味があります。ですから、ひずめが分かれたとは、自身の体を支えている四足、つまり、生きる理由が自身を割って分け与えるということを表しています。

これは、自分自身をこの世から区別しようとする信仰と、自分の人生を割いて他の人々に差し出す生き方そのものです。これがひずめの分かれたものを食べる人生です。自身を聖別し分け与える人生、これこそが『聖』です。レビ記 11 章では、これを「ひずめの全く切れたもの」という表現で書かれているのです。さらに、足が割れているとは、自己主張の放棄を意味しています。豚のように自身のものを分けられない人生を拒否しましょう。先に割っておかなければ、与えることはできません。だから、食べてもよいものの第一基準になるのです。

分け与える人生がキリストの体を支える足になるなら、反芻は頭の部分で起こっていることです。反芻を意味するヘブル語「ゲーラー(הָרָג)」は、「再び引き出す」という意味の語源からできた言葉です。反芻とは、神様の御言葉をもう一度引き出して、噛む行為を表しています。韓国の言葉においても、反芻には動物の反芻以外に、何かを繰り返して考えるという意味があります。黙想も、御言葉が聖書の中で終わる話ではなく、聖書の内容を自

身の人生に適用する話です。御言葉が肉になるのが黙想です。自身のお腹に主の御言葉を満たさなければなりません。

「そして彼はわたしに言われた、『人の子よ、わたしがあなたに与えるこの巻物を食べ、これであなたの腹を満たしなさい』。わたしがそれを食べると、それはわたしの口に甘いこと蜜のようであった」（エゼキエル 3:3）

ユダヤ人たちは、レビ記における「食事の規定」を「コーシェル（ כשר ）」と呼びます。それは「不合」するという意味の単語です。私たちが欲望を捨て、神の御心にかなった者になることが、食事の規定が持つ意味なのです。

最も中心となる文字

モーセ五書の最も中心になる個所はレビ記 11 章 42 節です。ヘブル律法学者たちがすべての文字を数えてわかったことです。実に凄い人たちです。あの文字数を数える気になるなんて！　モーセ五書は 304,805 個のヘブル文字で書かれており、その真ん中は 152,403 番目の文字です。最も重要だから真ん中に隠した箇所は、レビ記 11 章 42 節になります。

「すべて腹ばい行くもの、四つ足で歩くもの、あるいは多くの足をもつもの、すなわち、すべて地に這うものは、あなたがたはこれを食べてはならない。それらは忌むべきものだからである」

モーセ五書の最も中心にある単語は「腹」です。腹はヘブル語で「ゲホーン」と言います。「ゲホーン」の語源は「ギーホーン」

ですが、「水が流れ出る」という意味です。私たちの腹が生ける水の川の起点に変わるのが天国の回復です。

「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」（ヨハネ 7:38）

イエス様に出会う前、私たちは「腹ばいで動き回る」人生を生きていました。欲望と虚無に陥り、地に這って歩む人生でした。それでも、自身の腹の望むことが人生の幸福だと、自らを騙しつつ生きていました。欲望のブラックホールのように、私たちの腹は継続して「与えよ！与えよ！」（箴言 30:15）と放してくれません。

しかし、私たちが生まれ変わり、信仰と御言葉で生きるとき、聖書の約束が成就し、私たちの腹から生ける水の川が流れ出るようになるのです。これによって、聖なる主と完全に一致するのです。

「わたしはあなたがたの神となるため、あなたがたをエジプトの国から導き上った主である。わたしは聖なる者であるから、あなたがたは聖なる者とならなければならない」（レビ記 11:45）†

カン・サン 牧師／十字架教会＜御言葉の前に立つあなたに＞著者

「あなたは何をあきらめたのか」

ある日、ルカによる福音書に登場する金持ちの話で主日説教の準備をしていたら、机の上でうとうとしてしまった。しかし、その短い時間に、とても特別な夢を見ました。神様が私の書斎に入って来られて、いきなりこう聞かれたのです。

「サンよ、あなたは何をあきらめたのか？」

私が答えられずにぐずぐずしていると、神様はその質問にこのように付け加えられました。

「あなたの能力不足で、あるいはやりたくないからあきらめたものではなく、できる能力があり、かつやりたいと望んでいたにもかかわらず、私のためにあきらめたことは何かあるのか」と再び尋ねられました。

その時、聖霊様からいただいた知恵と勇気を持ってこう答えたのです。

「神様！　あきらめずに握っているものはとても多いですが、それでも神様のために三つのことを手放しました。

無駄な情報による誘惑と欲望に導かれて、神様が私にくださった時間を無駄にしないように、スマートフォンをあきらめました。スマートフォンには有用な機能がたくさんありますが、その有用な機能だけを使うこともしませんでした。新しい携帯電話に変えるべき時が来ても、過去に誰かがプレゼントしてくれると言っても、スマートフォンを持ったことはありませんでした。内にうごめく肉の欲に溺れないように、最善を尽くしてスマートフォンを拒否してきました。

二番目は車をあきらめました。もちろん、最初は車を買うお金もなく、運転する機会もありませんでした。しかし、車の運転は私の荒い気性と車の所有欲を刺激し、座って聖書を研究するよりも、グルメや遊びに行きたがると思い、自分の中から沸き上がる目の欲に陥らないように、今まで最善を尽くして、車の運転を断ってきました。

そして、三番目は名誉に関連するものを一切放棄しました。学費全額を支援してもらい留学できる機会もありましたが、私は博士号取得の道に進みませんでした。教会を開拓してから、より良い給料と良い環境での牧会ができる提案が三度ありましたが、それらは断りました。それだけでなく、十字架教会の担任牧師という地位より良く見えるいかなる誘いもすべて辞退しました。

私は、神様から任せられた「牧師」という役割だけでも、すべてをこなすに足りない人物です。万が一私に博士号や高い地位が与えられれば、それらを利用して人々から尊敬を集め、暮らし向きの自慢の誘惑に陥る私ですので、最善を尽くして断ってきました。この 30 年間、私がこの 3 つをどれほど徹底的に放棄してき

たのか、神様がよくご存知です」。

神様は私を見てにっこり笑って、部屋を出て行かれました。それは、引き続きそう生きることを期待し、またそうできると信頼する微笑みでした。目が覚めると、エデンの園にあった善悪の知識の木を思い出したのです。アダムとエバが、その美しくて幸せだったエデンの園を失った理由は、あきらめるべきものを、手放せなかったからでした。

食べるによい肉の欲、見るによい目の欲、賢くなって神のようになりたかった暮らし向きの自慢が詰まった、善悪の知識の木の実をあきらめられなかったのです。結局、そのたった一つの実をあきらめられなかったことで、それより大きく美しい神様とその方からの贈り物をすべて放棄することになりました。

あきらめるときに得るもの

イエス様を信じ始めた頃や、主の御心を知らずにいる時は、多くの場合、何かを得ることだけに集中しがちです。しかし、本当にイエス・キリストに出会ったあとは、私たちが焦点を合わせるべきは「放棄」ということに気がつきます。

言い換えるならば、究極的には「選択」は放棄の問題に帰結します。イエス様は、私たちにいのちを与えられたあとは、残りのすべてをあきらめるように言われます。しかし、大多数のクリスチャンが、お金、欲望や貪欲、成功と名声をあきらめることができず、結局はイエス・キリストと神の国をあきらめることになります。使命と十字架を放棄し、いのちと復活を放棄するのです。

真の選択は一度の決定ではなく、連続した選択であるように、真の放棄も一度の忍耐やあきらめではなく、連続した放棄です。本当の変化は何かを得ることから始まるのではなく、決定的な何かを真剣にあきらめることで完成します。

非常に厳しかった 2021 年が終わろうとしています。人々はこの最後の瞬間まで、何をもっと食べようか、何をもっと買おうか、誰に会おうか、何をもっと得ようかに集中しています。

しかし、本当に 1 年を美しく終えるには、この最後の 1 ヵ月間、あきらめなければならないことに、心を注いでみましょう。いまだに抱いている恨み、赦せない気持ち、依然として繰り返される悪習慣、会ってはならない人、そして、神様と使命を阻む偽りと貪欲と欲望…。その内の一つだけでもあきらめるのであれば、人生は新しくなります。神様はこのコロナを通して、私たちに「放棄」という祝福を、強制的にでも学ぶことを望んでおられるのではないでしょうか？

今この時間、しばらく目を閉じて十字架の主を思い浮かべてみてください。私たちを救おうと天の御座を捨て、肉体をまとわれたこの方は、あらゆる嘲りと裏切りに会われ、むち打たれた体で十字架の上で血を流しながら、あなたに問いかけておられます。

「私はすべてを放棄してあなたを選んだが、あなたは私のために何を放棄するのか？」

今度はあなたの番です。言葉だけでなく人生で答えるのです！†

発行：純福音東京教会　文書宣教会・しなんげ出版部

【翻　　訳】 趙 榮珍 執事、李カレン 執事、林 俊秀 教育生、李 珍 執事、朴 宰完 按手執事、
青年部翻訳チーム、金澤由紀子 勧士

【日本語校正】 垣内温子 姉妹、今村和世 執事、吉田綾子 執事、向川 誉 執事、澤田義則 執事

【監　　修】 向川 誉 執事

【印刷・製本】 間杉典生 按手執事

【再　編　集】 金澤由紀子 勧士

純福音東京教会 文書宣教会・しなんげ出版部
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

<聖書と信仰者から学ぶ生き方マガジン>

しなんげ 1

HAPPY

New Year

2022

愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、
あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、
わたしは祈っている。（Ⅲヨハネ 1:2）

Full Gospel Tokyo Church